



生もご覧になったことと思います。新しいクラスで二週間過ごしていますが、寝かせようとすると必ず「僕は寝ないぞ」と言わんばかりの大泣きをします。泣き疲れて眠るのがA君のスタイルになってしまったと同時に、A君を寝かせるのはS先生、という意識がいつの間にか保育者の間にも定着していたのです。私は先輩のS先生が寝かしつけるのを見ていただけでした。

昨日、保育者の間でA君のことが話題となり、「二人の担任だけでなく、どの担任もA君を寝かせられるようになったほうがいい」と話し合ったのです。そこで、改めてA君との今までのかわり方を振り返ってみると、私は苦手意識から、お昼寝の場面を避けてきたように思えてきました。そして今日、ついに私がA君のお昼寝を担当することになったのです。A君は友達がどんどん布団に入り始める

と、サンルームに出て遊び始めたでしょう。もうお昼寝の時間だということが、わかっているのだと思うのです。

### ……ふたたび観察者から保育者へ

そうでしたね、A君は保育者たちの視線におかまひなしに、着替えをしてからも保育室と続きになっているサンルームに出て、機嫌よく一人で遊んでいました。給食も終わり、もう眠たくなった子どもは、布団に横になり始めていました。子どももの体は「トントン」している保育者もいます。寝かしつけている保育者たちの視線は、いつしかA君に集まり、その口ぶりから私は、A君を寝かせるのに保育者たちが苦労していることを理解しました。そのうちに、ベテランの保育者が「海宝先生、やってみる？」と声をかけるのが聞こえました。海宝先生は

「え、私ですか？」と戸惑ったような照れたような表情で答え、他児の世話を終えてから「Aくーん」と近づいて行きました。

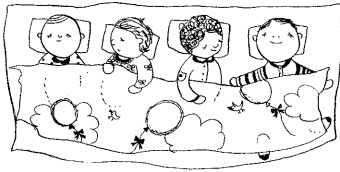
観ている私のほうが、どうなるのだろう、大丈夫だろうかとドキドキしてきました。これは重大な局面に出くわしてしまった、卒業生である保育者二年生の大きな挑戦の場に居合わせたことが、幸運なのか不運なのか、と内心かなり狼狽していました。でも、海宝先生は落ち着いて与えられた仕事に向き合っていましたね。もしかしたら、声のかかった瞬間に、覚悟が決まったのでしょうか。

### ……ふたたび保育者から観察者へ

前日の話し合いの後でもありましたから、確かに、「きた」「よし」と覚悟はできました。私は保育者としてまだまだ未熟なので、こんなふうは何で

も意欲的に「やってみよう」という姿勢で取り組むことだけは、自分に課しているような気がします。だからもう、A君のお昼寝から逃げることは、自分に許せなかったのかもしれない。それに、人一倍体をたくさん動かして遊ぶA君にはお昼寝は必要なことだし、目覚めてからまた遊び始める心地よさも知ってもらいたいと思っていました。

私は「A君ねんねだよ」と声をかけましたが、A君はにこにこしながらご機嫌で遊び続けていました。それで私は、無理にすぐ寝かせようとは考えないことにして、少し遊ばせておこうと決めました。A君はお昼寝の時間だということがわかってはいるはずなので、そこに、寝かせよう寝かせようとする



る保育者がそばに居るより、少しの間好きなことをして気持ちを鎮めたほうがいいのではないかと考えたのです。二十分くらいたち、他児が寝静まったところで、私はいよいよA君の所へ行きました。本当に覚悟ができたのは、この瞬間だったかもしれませ

ん。

私はA君を抱きましたが、やはり泣いて体をバタつかせます。サンルームで話しかけながら様子を見ていると、徐々に泣きも落ち着き、目が閉じてきました。しかし、布団が嫌いなA君は布団の肌触りに敏感で、私が床に座りA君を布団に下ろすと、途端に泣きだします。トントンされるのも嫌うことを知っていたので、私はA君のおなかにそっと手を当て、寝入るのを待ちました。やがて寝息をたて始めましたので、私のひざののっていたA君の脚をそっと布団に下ろしました。

このとき私は、一步A君に近づけたような感じを覚えました。これまで、「なぜ寝ないのだろう」「寝ている子を起さないで」という思いがA君を見る私のどこかにありました。今日A君の寝顔を見ながら私は、「午後からまた元気に遊んでね」と思いました。こんなふうに思える自分が、やはり今までとは違う、A君との関係が違ってきていると感じました。子どもと深くかわるほど、心苦しい経験もします。でも今になって考えると、それを避けていたのでは今日のような経験もまた、決してできないのでしようね。

A君を受けもつようになって二週間になります。嫌いなお昼寝を好きになってもらう、あるいは一日の生活の中の自然な流れとして受け止めてもらうことは、一朝一夕にはできません。A君自身にとっても保育者にとっても、まだまだ長い道のあるで

しょう。でも、今日私がA君のお昼寝に立ち会えたこと、そこで得た感触を支えに、これからもっとA君に近づいていきたいと思います。戸外でA君と一緒にたくさん身体を動かし、楽しい一瞬を一つでも多く共有していきたいと考えています。

先生、保育をしていると次から次へと自分の課題がみえてきますね。今の私はそのたびに、みえてきたその課題に挑むことが楽しみになります。A君と私がこれからどうなっていくか、ぜひまた観てくださいます。

### ……… …みたび観察者から保育者へ

日々全力投球ですね。全力でかわり、振り返って考える。考えた末みえてきた方向に、また全力で向かう。それが若手保育者のもち味であり、強みでもあるかもしれない。あの場面は、A君にとって

も今まで寝かせてくれていたのと違う先生とお昼寝するという、新たな挑戦、課題に直面した場面であつたのですね。子どもが育つ現場で、若い保育者が育っていくその一歩を目の当たりにできたのですから、私自身が貴重な経験をさせてもらいました。改めてありがとうございます。

そして、「がんばれ」「海宝先生にがんばれ？」それともA君に「がんばれ？」「笑」などと話しながら、心配を笑顔の下にとどめて見守っていた先輩保育者たちが、今後の海宝先生の成長をきくと助けてくださるでしょう。あのような温かい人間関係の中に大事な卒業生を一人送り出したことにもまた、喜びと感謝を禁じ得ません。

観察者 吉村 香（千葉経済短期大学）  
保育者 海宝里咲（みつわ台保育園）